



唐櫃道にて

第6回テーマ：
六甲山北山麓の歴史
～歴史探遊と講演～

★セミナー1：歴史探遊
(10:00～13:40)

神戸電鉄六甲駅発→山王神社→
四鬼家→唐櫃道→シュラインロード
(野仏三十三体)→行者堂(昼食)
→前ヶ辻→自然保護センター

★セミナー2：講演
六甲山自然保護センターにて
(14:00～15:30)

実施日：平成15年9月20日(土)



講師：豊田 実さん

プロフィール

大正15年神戸市生まれ
神戸歴史クラブ理事長
昭和59年神戸市立福住小学校校長、昭和62年神戸市立総合教育センター主任指導員、平成5～9年日本教育新聞社関西支社兵庫支局長

セミナー1：歴史探遊

(雨の中の六甲越え・唐櫃古道、修験道者の気分でコースを楽しむ)

雨にも関わらず元気にスタート

今回は神戸電鉄六甲駅に集合。スタッフは事前に下見をして準備万端で本番を迎えました。当日は小雨が降り不安定なお天気でしたが、元気な顔が続々と集まりました。「唐櫃古道、シュラインロードを歩きながら、影に隠れた昔の生活の歴史を感じて欲しいと思います。」と豊田先生の言葉を念頭に出発しました。

心に残る四鬼家でのお話

四鬼(しき)家に到着。庭の中へ入ると、四鬼さんご夫婦が暖かく迎えてくれました。当主の四鬼啓二さんのお歳は90歳。四鬼さんの子供の頃のお話を伺い、六甲山の池の氷を挽く時に使用したのこぎりも拝見。お話の後「道中気をつけて」とお茶を一本ずついただき、全員感激しました。
(※詳しくは2ページ参照)



四鬼ご夫妻

シュラインロードで野仏を拝む

石仏は全部で三十三体ありシュラインロードの左右に点々と祀られています。この道で野盗等に襲われた人の供養や、道中無事、商売繁盛を願って建立されたとのこと。そのうちの九体は裏六甲ドライブウェイの道路工事のために国土交通省により一箇所にまとめられました。六甲山を歩いたイギリス人がこれらを見て感激し、この道を聖なる道“シュラインロード”と名付けたとのことです。皆で番号を確認しながら上っていきました。

行者堂で一息入れる

雨に濡れながらやっとの思いで行者堂に到着し昼食をとりました。昼食後も豊田先生の軽妙な話を聞き入り、充実した歴史探遊をしました。皆様お疲れ様でした。



やっとな息、ランチタイム

セミナー2：講演

(六甲山自然保護センターで14:00から開講)

雨の中の歴史探遊を無事終えて、温かいお茶で一息ついた後、講演は始まりました。講演から4名が新たに参加しました。今回は大半が朝からの参加者だったので、話が重複しないように六甲山北山麓に限定せず進めていきました。脱線めいた話もあり、盛り上がりました。豊田先生は「古老、四鬼さんから聞いた話が皆さんの心に一番残ったと思います。直接話を聞くことが一番の収穫です。歴史の本では数行でしか書いていない。今日

はずばらしい物が手に入ったと思います」と冒頭で述べ、歴史探訪の成果を共感しました。講演内容：お地蔵さんのよだれかけの話、灘の酒樽の話六甲の財産区の話他。



セミナーの様子

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
後援：兵庫県神戸県民局
兵庫県立人と自然の博物館

テーマ：六甲山北山麓の歴史

セミナー1：歴史探遊 六甲越え・唐櫃古道、シュラインロード、約3時間のコースをご案内します。

1. 神鉄六甲駅を出発 (10:13) 順路マップ①～⑨ (参考資料「山と高原地図 53」)



小雨の中、参加者18名で六甲越え・唐櫃古道の歴史探遊へ出発。

2. 山王神社に到着 (10:16)

「鎮守の森」と言われ、境内は兵庫県環境緑地保全地域に指定されている。

3. 四鬼家に到着 (10:35)



4. 九体仏 (11:35)



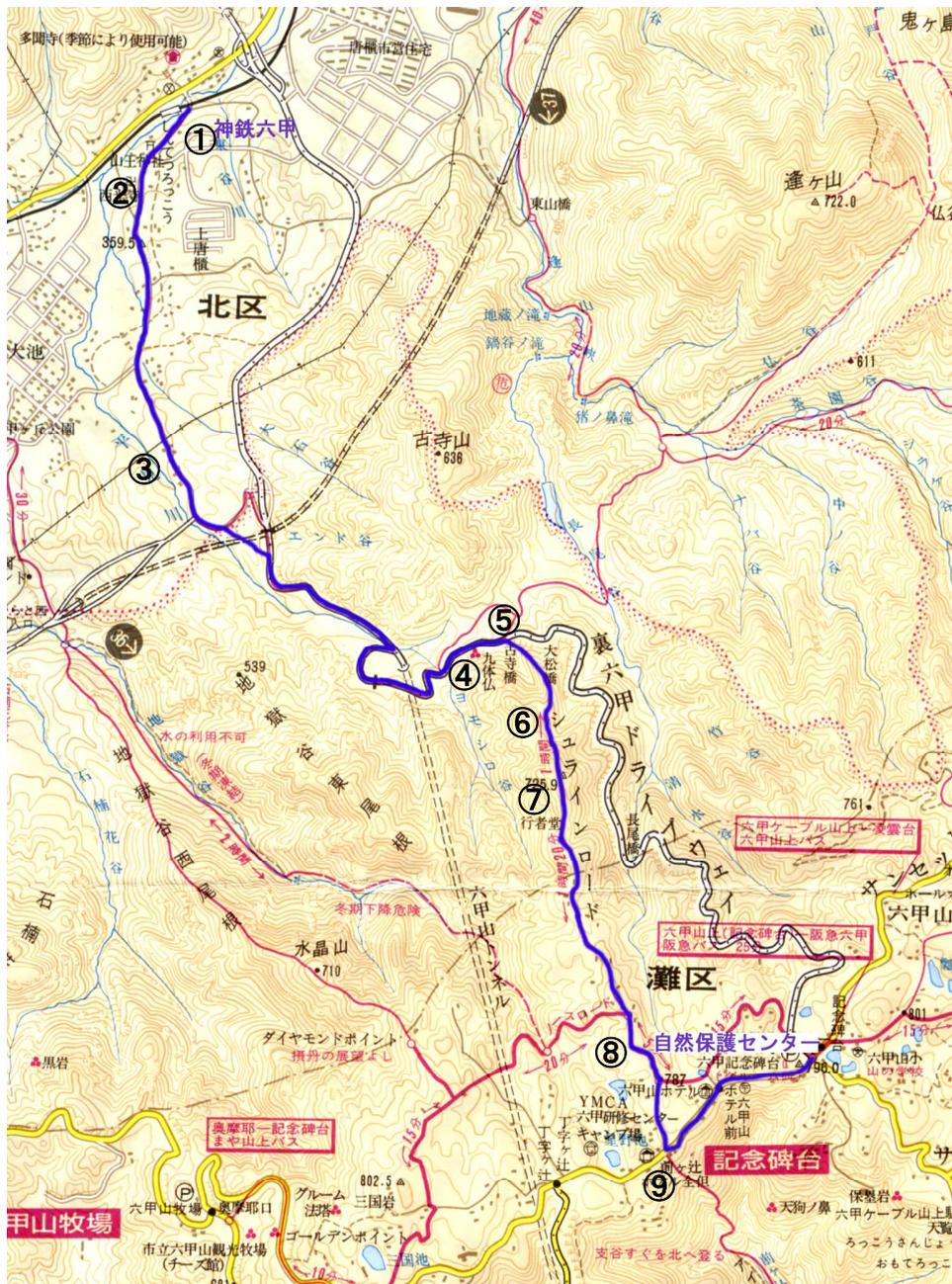
5. シュラインロード入口



6. シュラインロードの野仏



三十三体の観音菩薩はそれぞれ顔や姿が違う。



7. 行者堂に到着 (12:15)



ここで役行者が護摩を焚いて祈願をした。

8. 雨の中を歩く



雨が一層趣き深い雰囲気を出してくれた。

9. 前ヶ辻 (13:10)



シュラインロード終点。アイスロードの降り口。

四鬼家をお訪ねして

四鬼さんは役行者の弟子の子孫。代々唐櫃の地に住み古くから信頼を集めている家柄。人々は無事に闇夜の山越えが出来るよう四鬼家を訪ねて一服し、魔よけとして火縄とちようちんを授かり出発したとのこと。

子供の頃のお話を伺った。「昔から唐櫃の人は役行者を信仰しておりました。先達は7、8歳くらいの子供を連れて大峰山へ役行者参りをします。そこに西ののぞきという所があり、先達は子供をそののぞきから前に出して『お父さんとお母さんの言うことをちゃんと聞くんやで。先祖を大事にするんやで。』と言い聞かせます。子供は一途に守り、これが唐櫃の習慣となっていました。唐櫃の人は役行者を神様として崇めており心の中に溶け込んでいるのです。」全員が感激しました。



六甲山の池の氷を挽く時に使用した「のこぎり」をもって記念撮影

セミナー2: 講演「六甲山北山麓の歴史」

お地蔵さんのよだれかけ

シュラインロードには観音菩薩の野仏が並んでいるが、六甲山には他に地蔵菩薩も祀られている。地蔵菩薩にはよだれかけがしてある。よだれかけは、子を守る母親の思いからつけられたそうだ。次のような話がある。

江戸時代の初期頃飢饉があり、疫病が流行った。疫病で乳呑み児を亡くした母親は我が子が三途の川でいじめられない様に地蔵にお願いした。



黒田さん・石田さん・青木さん

すると地蔵は「その子の香りがほしい」と呟き、母親は乳呑み児のよだれかけを地蔵の首にかけた。地蔵はそれと同じ香りの子を守り、見届けてくれたそうだ。

灘の樽酒の話

大吟醸の灘の生一本、これを“下り酒”という。樽廻船で灘から江戸へ4、5日かけて運ぶが、10隻のうち3隻は沈没していたようである。当時江戸へ向かうことを「下る」としており、江戸に下る物は上等、下らない物は下等とされた。灘酒は輸送の過程で、吉野杉の香りと酒が混ざり熟し、江戸の酒より旨いと人気があった。

樽酒には薦（こも）が巻いている。船で運ぶ際ショックで樽が壊れないようにつけたものである。

六甲媛神社とは？

心経岩と雲ヶ岩の間にある。お堂の裏にご神体岩磐（いわくら）が祀ってある。六甲山全体を守るやきもちやきの女神とのこと。



河津さん、松島さん

六甲の財産区とは？

財産区とは、地方自治体に定められた特別地方公共団体のこと。旧住吉村の財産を自主的に管理する財団法人で有名な住吉学園がある。終戦後、住吉村に別荘を持ち住んでいた大会社の重役達（観音クラブ）が知恵を出し、住吉学園という財団法人をつくった。現在、住吉学園は六甲山の南面の土地を大きく所有し、別荘や保養所は借地で運営されている。

豊田先生のまとめ

歴史というのは、自分が歩いて証拠をつかむべき。実際に歩いてみないとわからない。年代覚えだけでは意味がない。汗を流して体験し、もっと知りたいと思うことが大切である。今日の体験や学んだことをぜひ自分の子供や孫に話をして伝えて欲しい。



今日の話をもっと伝えたいと山本さん

◆配布資料：

- ・「六甲山物語（六甲山の語り部）」

※「神戸歴史クラブ」：

生涯学習の一環として、高齢者の方々の健康と知識の拡充を目的として活動をしています。

連絡先：神戸歴史クラブ 豊田 實
神戸市須磨区平田町 1-1-16
ハヶ代ビル内
TEL：078-861-4923 FAX：078-861-4923

◆参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・唐櫃台に住んでいるのに初めての事ばかりでとても有意義な一日だった。・小雨の歴史探遊も趣き深い。
- ・北から登るのは初めてで魅力を再発見した。・また秋に行きたい。・参加しやすい雰囲気楽しかった。

◆参加者：22名（順不同・敬称略）

松島 朋子	河津 幸生	青木 孝子	菖蒲 一枝
山本 悟而	門 昭子	門 真郎	藤坂 公子
八木 浄	仁木智恵美	北野 孝子	鞆本 益子
石田 澄子	黒田 郁子	白岩 卓巳	坂本 豊子
戸田 清彦	島崎 渉	豊田 實	堂馬 英二
中野 一	菖蒲 美枝		